



株式会社みずほ銀行

Mizuho インパクト預金フレームワーク

2024年10月

Ver 1.0

サステナブルビジネス部

目次

1. はじめに.....	2
2. Mizuho インパクト預金フレームワークについて.....	4
2.1 Mizuho インパクト預金フレームワーク作成の背景.....	4
2.2 Mizuho インパクト預金の使途.....	4
2.3 Mizuho インパクト預金の使途となるファイナンスの概要.....	4
3. Mizuho インパクト預金の管理.....	6
4. レポーティング.....	7
5. 第三者によるレビュー.....	7
6. 免責事項.....	8

1. はじめに

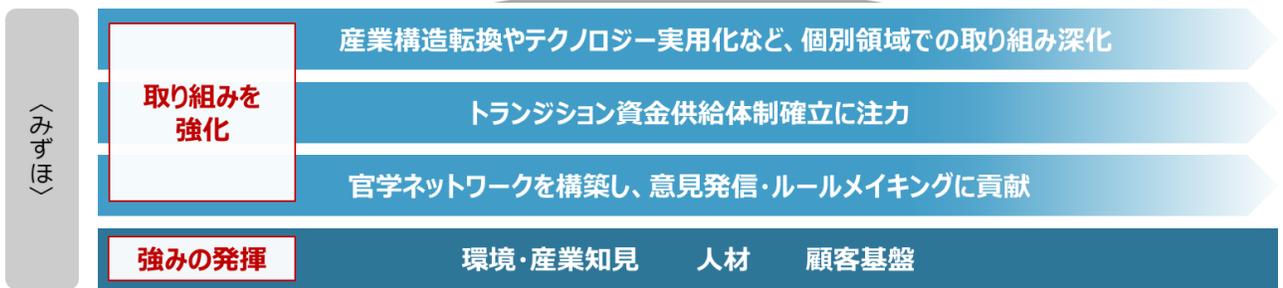
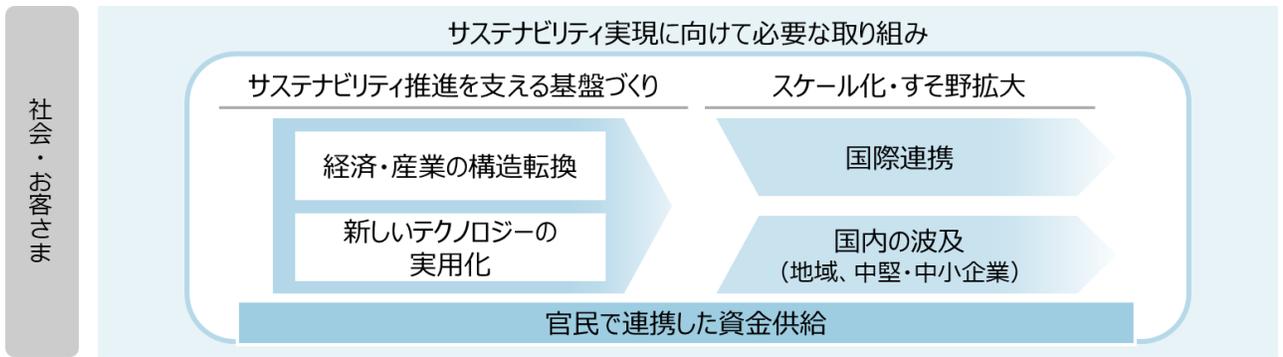
みずほグループ（以下、〈みずほ〉）は、株式会社みずほフィナンシャルグループ（以下、みずほFG）を最終親会社とする世界最大規模の金融グループです。株式会社みずほ銀行（以下、みずほ銀行）は〈みずほ〉における銀行子会社であり、国内最大級の顧客基盤、国内外の拠点ネットワークを有する日本のリーディングバンクの一つです。

〈みずほ〉はサステナビリティを経営戦略と一体的に捉え、ポジティブインパクトの拡大とネガティブインパクトの低減の両面から取り組み、SDGs 達成に貢献していくことをめざしています。

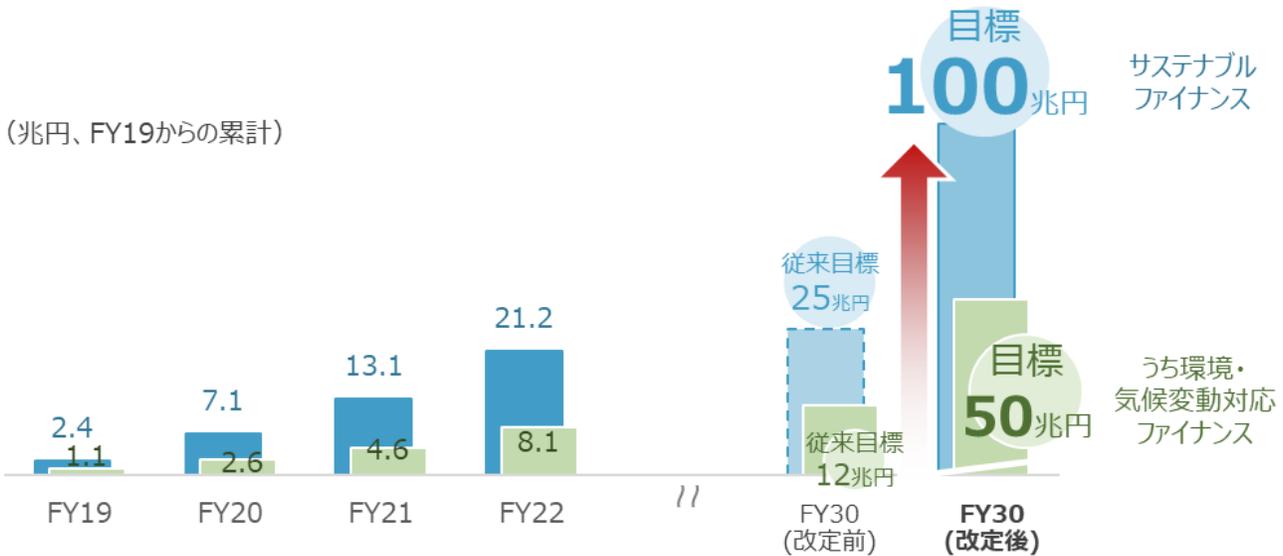
長期的な視点に立ち、「マテリアリティ」に取り組むことで、環境の保全および内外の経済・産業・社会の持続的な発展・繁栄に貢献し、様々なステークホルダーの価値創造に配慮した経営と〈みずほ〉の持続的かつ安定的な成長による企業価値の向上を実現します。

マテリアリティ		
ビジネス 経営基盤	少子高齢化と健康・長寿	人生100年時代の一人ひとりに応じた安心・安全・便利
	産業発展とイノベーション	産業・事業の発展を支え、グローバルに新たな価値を創造
	健全な経済成長	内外環境変化に対応する金融インフラ機能の発揮を通じた経済発展への貢献
	環境・社会	お客さまと共に環境の保全をはじめとする社会の持続的な発展を実現
	人材	自律的な企業文化のもと多様な社員が活躍し、お客さま・社会と共に成長
	ガバナンス	お客さま・社会に貢献するための強固な企業統治と安定的な業務運営

〈みずほ〉は、脱炭素社会の実現に向けて、経済・産業の構造転換と新しいテクノロジー実用化をお客さまと共創し、〈みずほ〉の内外ネットワークや顧客基盤を生かして、その取り組みを国内外に波及させていきます。そのために必要となる資金をしっかりと供給していくとともに、〈みずほ〉の人材・知見も強化していきます。



〈みずほ〉は、金融仲介機能を発揮し、環境・社会課題解決に向けた資金の流れを作り出していくため、2023年4月に、2019年度-2030年度累計でのサステナブルファイナンス目標を100兆円、そのうち環境・気候変動対応ファイナンス目標を50兆円へと大きく引き上げており、達成に向けた取り組みを推進しています。



2. Mizuho インパクト預金フレームワークについて

みずほ銀行は、お客さまと「ともに」、インパクトの創出・拡大と、収益の創出・拡大の好循環を実現し、社会課題の解決と企業価値の向上を実現するため、Mizuho インパクト預金のフレームワークを新たに設定し、Mizuho インパクト預金（以下、本商品）の運用を開始します。

2.1 Mizuho インパクト預金フレームワーク作成の背景

近年、異常気象による自然災害、所得格差、少子高齢化等、社会・環境課題が顕在化し、経済にも悪影響を与えています。そのため、社会・環境課題の解決と企業価値の向上の両立が、グローバルアジェンダとなっています。

みずほフィナンシャルグループは、2024年5月、インパクト市場の拡大が加速する中で、将来の社会・経済構造転換の促進に向けて、インパクト市場の牽引を目指し、「インパクトビジネスの羅針盤」を公表しました。

インパクトビジネスへの取組みを強化するため、インパクト預金のフレームワークを新たに設定し、みずほ銀行の預金者が預け入れた預金（インパクト預金）を原資としたインパクトファイナンスを実行することで「調達」と「投融資」を一体化することを目指します。

みずほ銀行は、インパクト創出・拡大の実現に向け、インパクト評価に基づいたファイナンスをアセットとするインパクト預金を推進することで、インパクト市場の拡大を牽引し、社会・環境課題の解決に貢献します。

2.2 Mizuho インパクト預金の使途

みずほ銀行はインパクト預金を通じて調達した資金を、「2.3 Mizuho インパクト預金の使途となるファイナンスの概要」にて定義する適格インパクトファイナンスに充当します。

2.3 Mizuho インパクト預金の使途となるファイナンスの概要

環境・社会・経済において、ポジティブインパクトの拡大、もしくはネガティブインパクトの低減に資するファイナンスを幅広く本商品の充当資金の対象にすることで、インパクト市場の拡大を牽引するとともに、お客さまの多様なニーズにこたえることを目的とし、本商品への充当資金である適格インパクトファイナンスを、「特定のインパクトを意図するファイナンスについては環境省の「インパクトファイナンスの基本的考え方」、包括的なインパクトを意図するファイナンスについてはPIF原

則への適合性について、「評価機関から第三者意見を取得したファイナンス」（以下、適格インパクトファイナンス）と定めています。

環境省による「インパクトファイナンスの基本的考え方」にて示される4つの要素

- 投融资時に、環境・社会・経済のいずれの側面においても重大なネガティブインパクトを適切に緩和・管理することを前提に、少なくとも一つの側面においてポジティブなインパクトを生み出す意図を持つもの
- インパクトの評価及びモニタリングを行うもの
- インパクトの評価結果及びモニタリング結果の情報開示を行うもの
- 中長期的視点に基づき、個々の金融機関/投資家にとって適切なリスク・リターンを確保しようとするもの

適格インパクトファイナンスの例示（※）

※ 現時点における適格インパクトファイナンスの例は以下のとおりで、今後も該当する商品を拡大していく予定です

【Mizuho ポジティブ・インパクトファイナンス】

概要

- Mizuho ポジティブ・インパクトファイナンスでは、ポジティブ・インパクト金融原則に基づき、みずほリサーチ&テクノロジーズが独自に開発したインパクト評価フレームワークを活用し、お客さまが抱える環境・社会・経済におけるインパクト（ポジティブ・ネガティブ）を包括的かつ定量的に評価します。その評価において「ネガティブインパクトの抑制および少なくとも1つ以上のポジティブインパクトの創出」と確認された場合、当該取り組みの継続的な支援を通じたインパクトの創出を目的として融資を行うものです。
- みずほリサーチ&テクノロジーズが開発したインパクト評価フレームワークは、第三者評価機関である株式会社日本格付研究所（以下、JCR社）からポジティブ・インパクト金融原則への適合性についての第三者意見を取得しており、本商品による融資を通じて、お客さまの企業価値向上、社会的評価の獲得に貢献することを目指しています。
- 〈みずほ〉は、SDGs達成に向けた取り組みについて、環境・社会・経済へのポジティブインパクトを示していくことが重要であると考えており、金融機関として本商品を通じ、ポジティブインパクト創出・評価に向けた取り組みを支援しています。

- みずほ銀行は、みずほリサーチ&テクノロジーズと共にインパクト評価、ならびにインパクトマネジメント（定期的なモニタリングを通じたポジティブインパクトに関する Key Performance Indicator (KPI) 達成やネガティブインパクトのコントロール支援等）を活用したエンゲージメント（建設的な対話）を行うことで、お客さまの取り組みを継続的にサポートします。

【Mizuho ポジティブ・インパクトファイナンス PRO】

概要

- Mizuho ポジティブ・インパクトファイナンス PRO では、中堅・中小企業向けインパクト評価フレームワークを活用して、環境・社会・経済における企業が抱えるインパクト（ポジティブ・ネガティブ）を包括的に分析・評価を行い、評価対象である企業活動全体において「ネガティブ・インパクトの抑制および少なくとも1つ以上のポジティブ・インパクトの創出」と確認されたお客さまに対して、その活動を支援するファイナンス商品です。
- インパクト評価フレームワークは、第三者評価機関である JCR 社から第三者意見を取得しています。行内評価部署（サステナブルプロダクツ部）において評価を実施し、JCR からポジティブ・インパクト金融原則への適合性について第三者意見を取得します。
- 実行後については、定期的なモニタリングの実施と共に、改善策についてお客さまと認識を共有し、エンゲージメントを強化することを狙いとしています。

3. Mizuho インパクト預金の管理

みずほ銀行は Mizuho インパクト預金で調達した資金と同額を既存および新規の適格インパクトファイナンスへ充当します。Mizuho インパクト預金が残存している限り、みずほ銀行は、みずほ銀行内部の融資データシステムとその出力情報を基に、全適格インパクトファイナンスごとに、融資に係るリストを管理します。本リストにより、インパクト預金による調達金額が適格インパクトファイナンス残高を超過しないことを確認します。

尚、不測の適格インパクトファイナンスの期限前弁済等により、一時的に Mizuho インパクト預金で調達した金額が適格インパクトファイナンスの残高を超過する可能性はありますが、その間、調達資金はオーバーナイト取引やその他の短期金融商品に投資され、実務上可能な限りすぐに適格インパクトファイナンスに充当されます。

インパクト預金の元本と利息の支払いはみずほ銀行の一般資金から行われ、適格インパクトファイナンスのパフォーマンスに直接左右されることはありません。

4. レポーティング

みずほ銀行は、インパクト預金の残高が存在する限り、年1回、下記項目をホームページ等に開示する予定です。

レポーティング事項

- 開示事項
 - インパクト預金の残高、充当金額および未充当金額
 - インパクト預金の残高が適格インパクトファイナンスの投融資残高を超過していないこと
 - 適格インパクトファイナンスの投融資実績
- 開示のタイミング
 - インパクト預金の残高が存在する限り年1回
- 開示方法
 - みずほ銀行のホームページ

5. 第三者によるレビュー

本インパクト預金フレームワークのバージョン1.0は、2024年10月にJCR社の協力を得てみずほ銀行が開発しました。JCR社は日本国内における主要な格付け会社の一社で、日本で初めてポジティブ・インパクト・ファイナンスに係る第三者意見を提供するなど、進化を続けるサステナブルファイナンスについて、的確な外部評価を提供しています。



みずほ銀行はインパクト預金フレームワーク全体と、その基盤となる適格テーマ、適格な経済活動の開発、維持に責任を負っています。このフレームワークとのアラインメントを確実なものとするために、みずほ銀行は資金管理状況とインパクト預金をもたらすインパクトについてJCR社より毎年レビューを受けます。尚、適格インパクトファイナンスの対象ファイナンスを追加する際には、都度、JCR社に適合性について確認します。

環境・社会課題に関する情報や理解は進化し続けており、みずほ銀行はJCR社の協力を得て、インパクト預金フレームワークのレビューを毎年実施し、適格インパクトファイナンスを満たすクライテリアに追加または削除すべき活動を検討します。

6. 免責事項

- ・本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の勧誘を目的としたものではありません。本資料は、みずほ銀行が信頼に足りかつ正確であると判断した情報に基づき作成されておりますが、みずほ銀行はその正確性・確実性を保証するものではありません。
- ・インパクト預金の申込を検討される際は、本フレームワークに含まれる情報に依拠せずご自身の判断にてなされますよう、また必要な場合は、弁護士、会計士、税理士等にご相談いただきますようお願い申し上げます。
- ・本資料のすべての著作権はみずほ銀行に属します。本資料の一部または全部を、複写、写真複写、あるいはその他の如何なる手段において複製すること、当社の書面による許可なくして再配布することを禁じます。

© 2024 株式会社みずほ銀行